

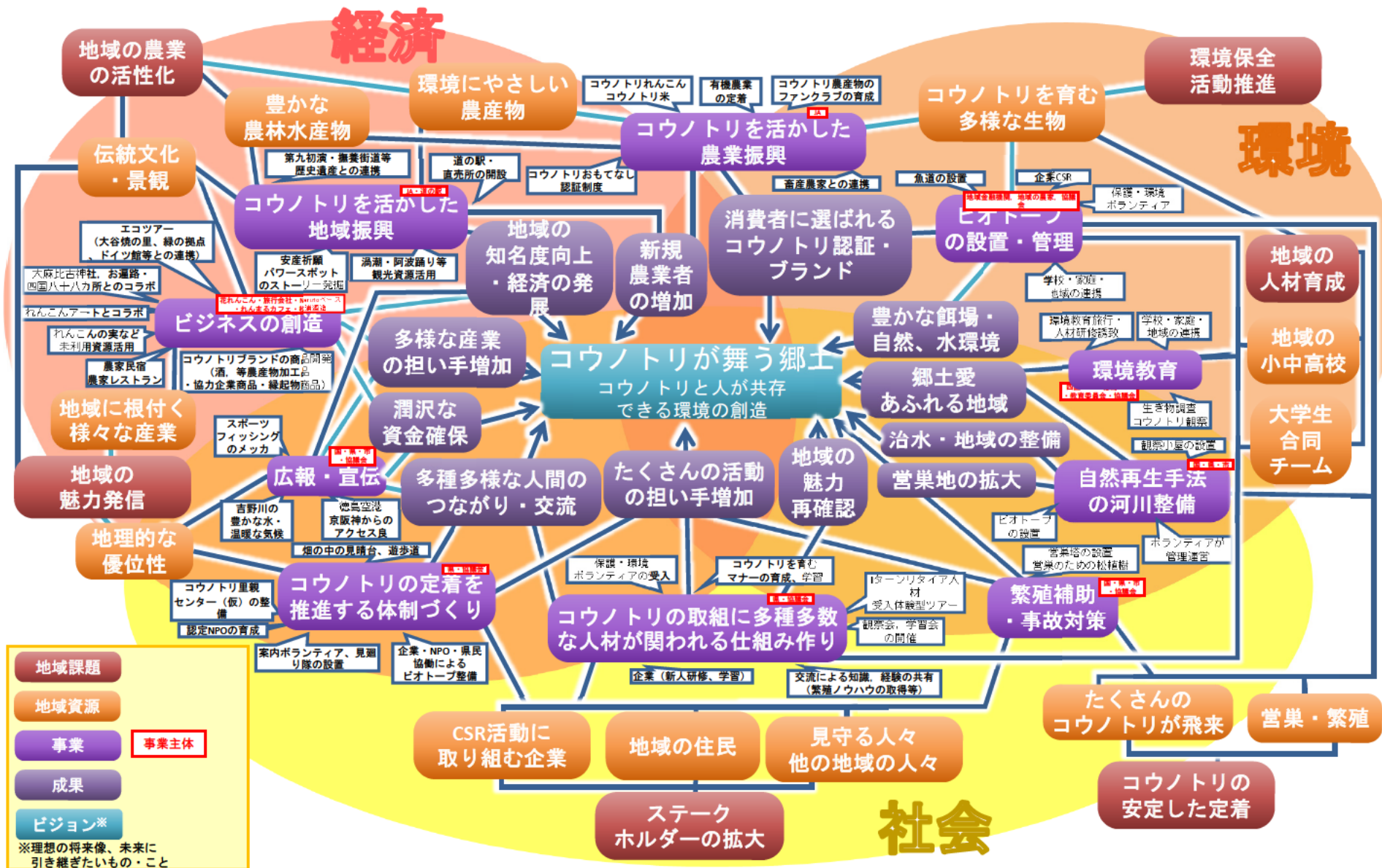
環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
成果報告会 発表資料

活動団体名：コウノトリ定着推進連絡協議会
活動地域：徳島県

活動におけるテーマ・キャッチコピー

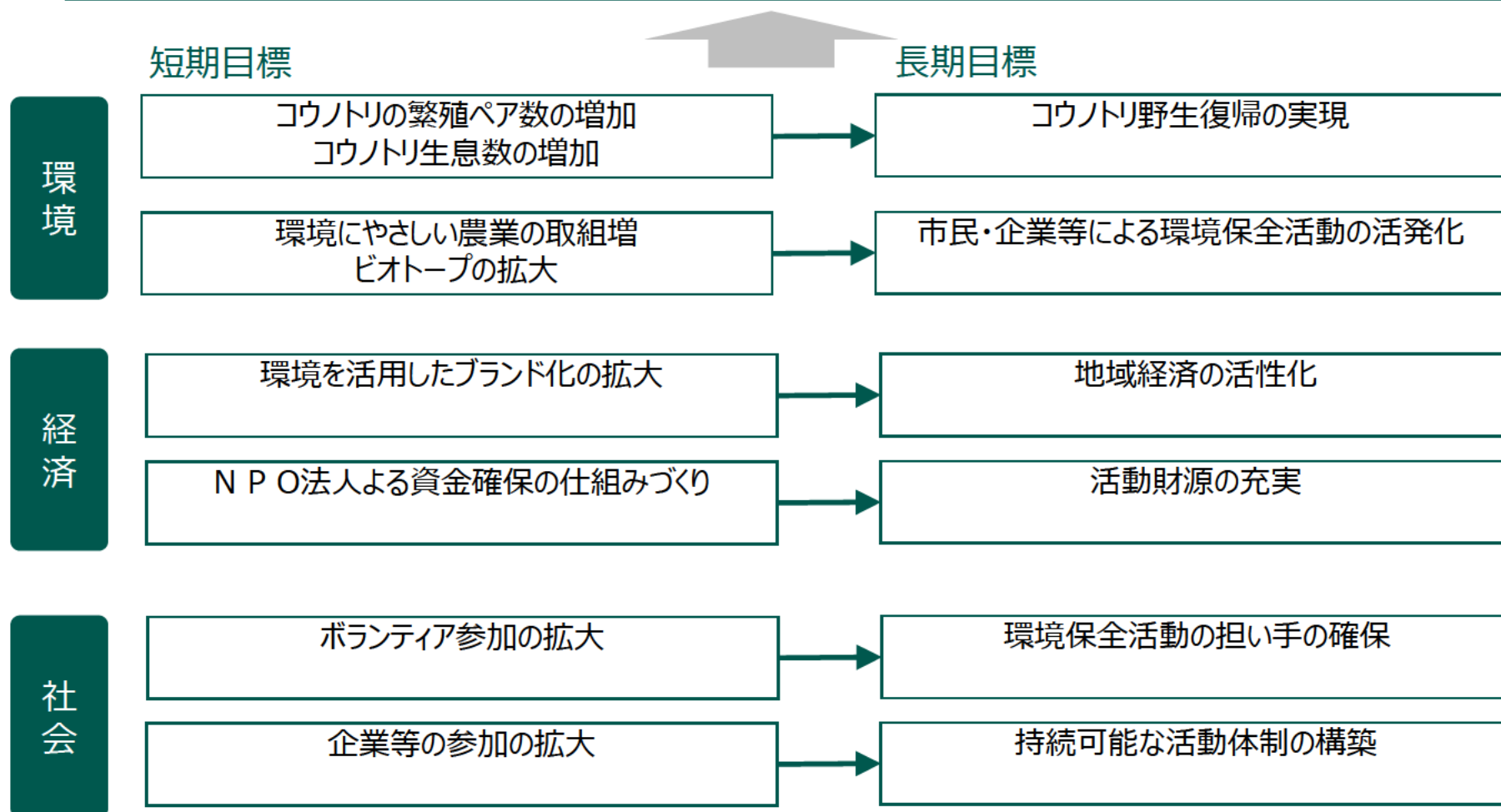
コウノトリの野生復帰で地域をパワーアップ！！

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿



地域のビジョンを実現するための成果指標

- ・日本では絶滅したコウノトリが野生復帰を果たし、当地域がその重要な拠点となっている
- ・環境保全の取り組みが経済の活性化とリンクしている
- ・コウノトリを指標とした環境に地域が誇りを持ち、環境保全に根ざした地域づくりが進んでいる
- ・市民だけにとどまらず、多くの企業、各種団体等がステークホルダーとして参加している



コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

1	事業の名称	ステークホルダーと資金システムの5倍増	
	事業の概要	<p>令和元年度に「NPO法人とくしまコウノトリ基金」を立ち上げ、活動体制を再構築し、ステークホルダーと資金を確保する仕組みの基礎ができた。</p> <p>NPOを「認定」化することにより、インセンティブを高め、参加企業等や資金の5倍増を目指す。</p> <p>参加企業等に対して地域循環共生圏やSDGs、エシカルに関する研修等を実施し、実質的なステークホルダーとする。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>中途半端な資金確保ではこの事業に必要なマンパワーが確保できない。</p> <p>認定化に必要なノウハウが不足している。</p>
2	事業の名称	他組織との連携による環境活動と経済活動の連携強化	
	事業の概要	<p>国交省のコウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会等と連携し、旧吉野川の自然再生事業を進めるとともに、地域の環境や文化をコンテンツとするエコツアーを企画する。</p> <p>観光事業者や行政等を連携し、インバウンドをも視野に入れたエコツアー実施を目指す。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>エコツアーのノウハウが不足している。</p> <p>インバウンドの受け皿となり得る主体の育成。</p>
3	事業の名称	コウノトリブランド商品の開発、販売の拡大	
	事業の概要	<p>鳴門市のコウノトリブランド認証制度、NPO法人への寄付を伴う商品群の開発を促進するとともに、大都市圏へ販路を広げ、飛躍的な販売拡大を目指す。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>ブランド戦略の行き詰まり。</p> <p>大都市圏への販売ルートが脆弱。</p>

今年度事業の成果と課題、今後の意気込み

今年度の成果

(本事業に取り組んで良かったこと)

- 本事業を活用してNPO法人を立ち上げたことにより、これまで巻き込めていなかった企業や団体、個人をステークホルダーとして確保できるようになった。
- 行政中心の活動主体から、民間企業等の資金とマンパワーを活用できる体制に再構築でき、活動や資金確保の手法の幅が広がった。
- 国土交通省など他省庁や他の団体との連携が広がった。

地域の活動の上での課題

- 地域でビジョンを共有できる範囲は限定的
国や県よりも、市町村、地域と狭くなるほど返って意識の共有が難しいこともある。
- 地域のプレーヤーを発見し、巻き込むことが難しい。
- 大都市圏との循環を進めるための仕組みを作る必要があるが、大都市圏側のパートナーを見出すことができてない。

今後の意気込み

- コウノトリの生息地である極東アジアや、ヨーロッパコウノトリの生息地である欧州（地元と姉妹都市のあるドイツなど）との交流
- 認定NPOを実現し、寄附金獲得の大幅増を狙い、活動の後継者となる職員を雇用